

会長記者会見の概要

日 時：2025 年 7 月 11 日（金） 15 時 00 分～15 時 30 分

場 所：東京証券取引所ビル地下 1 階 兜倶楽部

会見者：杉江副会長専務理事

（なお、今回は杉江副会長専務理事が代理で会見を行った。）

記者：

6 月の公募株式投信（除 ETF）の資金流入額（5,743 億円）について、これまでと比較してもかなり減ってきているように見える。本年 1 月には 2 兆円を超えていたが、前月（9,496 億円）と比べてもほぼ半減しており、このあたりの要因について伺いたい。以前、会長会見において、昨年の 1 月から 7 月あたりにかけては新 NISA の影響もあり順調に資金流入が増えているというようなお話もあったと記憶しているが、今年は徐々に資金流入が減ってきていることについてどのようにお考えか。

副会長：

公募株式投信（除 ETF）の資金流入について、設定額と解約・償還額に分けて見てみると、6 月の解約・償還額（2 兆 3,713 億円）は過去 1 年間の解約・償還平均額（2 兆 2,246 億円）をわずかに上回っている。ただ、6 月の償還額（1,115 億円）が 2014 年 12 月（1,142 億円）以来の大規模な償還だったということを加味すれば、平均額と変わらないくらいの結果であると考えられる。

一方、6 月の設定額（2 兆 9,456 億円）は、過去 1 年間の設定平均額（3 兆 5,529 億円）を下回っており、この点が資金流入の減少に影響しているとも考えられる。また、商品分類別の資金動向を見てみると、海外株式型における減少が大きく、やはりトランプ関税の問題等を背景とした経済の先行きに不確実性が高まっていることを反映し、設定額が減少したものと推察している。

全体としては新 NISA による「貯蓄から投資へ」の流れは継続していると考えるが、いずれにせよ今後も公募投信の資金動向について注視していきたい。

統計情報室長：

補足となるが、商品分類別の資金動向を見ると、海外株式型に加えて内外株式型の設定額も減少しており、解約・償還が増えているというよりも設定額が減少したことで、ネットで資金流入額が減っているようだ。

このほか、内外資産複合型では、多少増減はあるものの、毎月 1,000 億円程度の資金がコンスタントに流入していることから、積立投資に向いているとされるバランス型のファンドには継続的に資金が流入しているようだ。

記者：

6 月の公募株式投信（除 ETF）の資金流入額（5,743 億円）のうち、つみたて投資枠分はどのくらいか。

統計情報室長：

つみたて投資枠対象ファンドの資金流入額は 4,491 億円であった。

広報部長：

つみたて投資枠対象ファンドの資金流入額（4,491 億円）には、NISA 口座を通じた流入額だけではなく、それ以外の特定口座を通じた流入額も含まれている。この点についてはご留意いただきたい。

記者：

金融庁が 6 月下旬に公表した「資産運用サービスの高度化に向けたプロGRESSレポート 2025」についてどのように受け止めていらっしゃるか、率直なところを伺いたい。

副会長：

今回のプロGRESSレポートでは、運用会社においてプロダクトガバナンスを徹底するようにとのご示唆をいただいていることから、運用業界としても真摯に受け止め取り組んでいきたいと考えている。また、これまでのプロGRESSレポートでは投資信託を中心とした提言が多かった印象であったが、今回は DB や DC といった年金分野に関する記述もあった。これらの分野についてもプロGRESSレポートの対象として取り上げられたことは非常に良いことと評価している。

記者：

6 月の公募証券投信の純資産総額（254 兆 3,247 億円）が過去最高を更新したとのことだが、今後の見通しとしては更に純資産総額が伸びていくとお考えか。

広報部長：

今回の公募証券投信における純資産総額の過去最高更新は、今年 1 月に記録した 247 兆 2,328 億円を超えたことによるものであるが、この間（2025 年 1 月末～同年 6 月末）の純資産総額増加額（約 7.1 兆円）のうち、資金流入による増加が約 5.8 兆円、運用による増加が約 2.4 兆円、分配金による減少が約 1.1 兆円と、過去最高を更新したのは資金流入の増加によるところが大きい。純資産総額の過去最高更新の要因については、過去のケースを振り返っても同様のことが言え、資金流入が継続していくことを前提として、純資産総額は増加基調を辿っていくものと見ている。

記者：

6 月は償還額（1,115 億円）が多かったということだが、季節要因等の何らかの要因はあるか。

統計情報室長：

6 月は純資産総額が大きめのファンドで満期償還を迎えたものがあつたようだ。

広報部長：

満期償還ファンド一本で約 780 億円もの償還があった。また、全体では計 27 本の償還があり、合計すると久方ぶりの大きな償還額となった。

記者：

6 月の投信トピックの一つとして、「(早期償還条項付) 野村ハイベータ日本株 2506」という単位型の公募ファンドにおいて 1,500 億円超の資金が集まったことが話題となっているが、これについてご所感等伺いたい。

副会長：

個別ファンドについてはコメントしないというのが基本的な考え方ではあるが、投資家の多様なニーズに応えるために様々なファンドが設定されることは望ましいことであると思う。

以上